

# 道路施設長寿命化修繕計画

# 大淀町トンネル長寿命化修繕計画

## (1) 計画対象施設

計画対象となるトンネルは、大淀町が平成31年3月現在で管理している **1施設** となります。

## (2) 計画期間

中長期の計画では、更新費用を考えるためトンネルの寿命以上の年数を考え **50年間** としています。

短期計画では点検頻度やその他の道路施設の計画期間を考えて、 **10年間** の計画を策定しています。

## (3) 優先度評価の考え方

計画では、限られた予算で効果的な対策を実施するため、**健全度の低いものを最優先**とし、更に周辺環境や路線の位置付け等を踏まえ、事業実施の際に**町民に与える影響の大きいトンネル**から優先に補修を実施します。

## (4) 個別施設の状態等

これまでの点検によって診断された**トンネルの健全性とトンネルの重要度が高く対策を優先的に進めるために**必要となる指標をまとめています。一覧は「(5) 対策内容と実施時期」に記載します。

## (5) 対策内容と実施時期

今後10年間で対策を実施するトンネルの**対策内容と対策時期、対策費用**を整理しています。また(4) 個別施設の状態等で整理している対策の優先度を決める指標も記載しています。

表 個別施設の状態等、対策内容と実施時期

優先度	施設名	架設年次	健全度	点検年次	工法	延長(m)	幅員(m)	トンネル等級	主要点検指標				維持管理計画(点検・定期点検、設計・調査・補修設計、修繕・本体工対策、設備設備対策)										対策費用(千円)				
									緊急輸送設備	道路種別	交差状況	穴貫路の有無	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年					
1	中山トンネル	2001	Ⅲ	2014	NATM	392	9.4	D	無	その他	無	点検/設計	点検/設計							点検							34,000

## (6) 対策費用

長寿命化修繕計画を実施することによる**今後10年間の対策費用**を整理しています。

表 短期事業計画費用

単位：(千円)

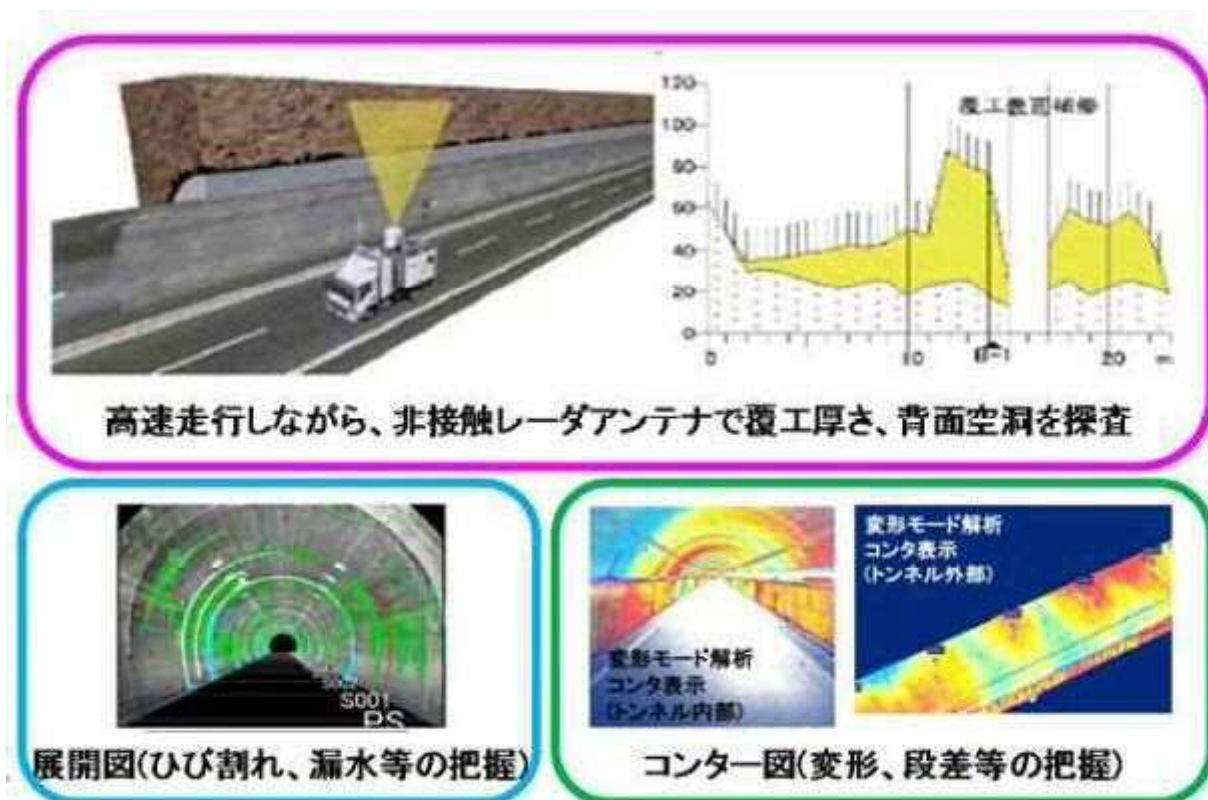
種別	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目
設計費	6,700	0	0	0	0	0	0	0	0	0
修繕費	0	19,300	0	0	0	0	0	0	0	0
点検費	4,000	0	0	0	0	4,000	0	0	0	0
合計	10,700	19,300	0	0	0	4,000	0	0	0	0
<b>10年の合計</b>									<b>34,000千円</b>	

(7) 今後のコスト縮減を基本とする維持管理体制

当該施設は、利用状況より代替え並びに集約化不可ではるものの、今後、維持管理費の負担増が想定されるため、下表の方針で取り組み的確且つ早期発見早期治療を目指し、維持管理コストの縮減に努めます。

下 表

<p>集約化・撤去</p>	<p>迂回路が存在せず集約が不可能となるために、<b>予防保全においてコスト縮減を検討します。</b></p>
<p>新技術等の活用</p>	<p>令和7年度までに<b>新技術の活用を目指します。</b></p>
<p>費用の縮減</p>	<p>1巡目の定期点検で高所作業車を使用した施設については、<b>新技術(NE TIS(新技術情報提供システム))の活用を重点的に検討し、令和7年度までの5年間で約0.5百万円のコスト縮減を目指します。</b></p>



# 大淀町横断歩道橋長寿命化修繕計画

## (1) 計画対象施設

計画対象となる横断歩道橋は、大淀町が平成 31 年 3 月現在で管理している 1 施設となります。

## (2) 計画期間

中長期の計画では、更新費用を考慮するため横断歩道橋の寿命以上の年数を考え 50 年間としています。

短期計画では点検頻度やその他の道路施設の計画期間を考慮して、10 年間の計画を策定しています。

## (3) 優先度評価の考え方

計画では、限られた予算で効果的な対策を実施するため、健全度の低いものを最優先とし、更に周辺環境や路線の位置付け等を踏まえ、事業実施の際に町民に与える影響の大きい横断歩道橋から優先に補修を実施します。

## (4) 個別施設の状態等

これまでの点検によって診断された横断歩道橋の健全性と横断歩道橋の重要度が高く対策を優先的に進めるために必要となる指標をまとめています。一覧は「(5) 対策内容と実施時期」に記載します。

## (5) 対策内容と実施時期

今後 10 年間で対策を実施する横断歩道橋の対策内容と対策時期、対策費用を整理しています。また(4) 個別施設の状態等で整理している対策の優先度を定める指標も記載しています。

表 個別施設の状態等、対策内容と実施時期

優先度	施設名	架設年次	健全度	点検年次	延長(m)	幅員(m)	重要度評価指標				維持管理計画(点検・定期点検・設計・調査・補修設計・修繕・本体工対策・設備設備対策)										対策費用(千円)			
							緊急輸送道路	道路種別	交差状況	代替路の有無	通学路の有無	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年		2028年		
1	福神歩道橋	2016	II	2017	43	3	無	その他	有	有	無				点検								点検	4,000

## (6) 対策費用

長寿命化修繕計画を実施することによる今後 10 年間の対策費用を整理しています。

表 短期事業計画費用

単位：(千円)

種別	1 年目	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	6 年目	7 年目	8 年目	9 年目	10 年目
設計費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
修繕費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
点検費	0	0	0	2,000	0	0	0	2,000	0	0
合計	0	0	0	2,000	0	0	0	2,000	0	0
<b>10年の合計</b>									<b>4,000千円</b>	

(7) 今後のコスト縮減を基本とする維持管理体制

当該施設は、利用状況より代替え並びに集約化不可ではるものの、今後、維持管理費の負担増が想定されるため、下表の方針で取り組み的確且つ早期発見早期治療を目指し、維持管理コストの縮減に努めます。

下 表

集約化・撤去	迂回路が存在せず集約が不可能となるために、 <b>予防保全においてコスト縮減を検討します。</b>
新技術等の活用	令和7年度までに <b>新技術の活用を目指します。</b>
費用の縮減	1巡目の定期点検で高所作業車を使用した施設については、 <b>新技術(NE TIS(新技術情報提供システム))の活用を重点的に検討し、令和7年度までの5年間で約0.5百万円のコスト縮減を目指します。</b>

① 橋梁等(画像計測技術)

- カメラを搭載したドローンやアーム型ロボットで道路橋の損傷写真を撮影



# 大淀町大型カルバート長寿命化修繕計画

## (1) 計画対象施設

計画対象となる大型カルバートは、大淀町が平成31年3月現在で管理している **1施設**となります。

## (2) 計画期間

中長期の計画では、更新費用を考慮するため大型カルバートの寿命以上の年数を考え **50年間**として  
います。

短期計画では点検頻度やその他の道路施設の計画期間を考慮して、**10年間**の計画を策定しています。

## (3) 優先度評価の考え方

計画では、限られた予算で効果的な対策を実施するため、**健全度の低いものを最優先**とし、更に周辺環境や路線の位置付け等を踏まえ、事業実施の際に**町民に与える影響の大きい大型カルバート**から優先に補修を実施します。

## (4) 個別施設の状態等

これまでの点検によって診断された**大型カルバートの健全性と大型カルバートの重要度が高く対策を優先的に進めるために**必要となる指標をまとめています。一覧は「(5) 対策内容と実施時期」に記載します。

## (5) 対策内容と実施時期

今後10年間で対策を実施する大型カルバートの**対策内容と対策時期、対策費用**を整理しています。また(4)個別施設の状態で整理している対策の優先度を定める指標も記載しています。

表 個別施設の状態等、対策内容と実施時期

優先度	施設名	架設年次	健全度	点検年次	延長(m)	幅員(m)	重要度評価指標					維持管理計画(点検・定期点検・設計・調査・補修設計・修繕・本体工対策・設備設備対策)										対策費用(千円)			
							緊急輸送道路	道路種別	交差状況	代替路の有無	通学路の有無	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年				
I	栗水道路カルバート	2009	II	2017	24	6.4	無	その他		無															4,000

## (6) 対策費用

長寿命化修繕計画を実施することによる**今後10年間の対策費用**を整理しています。

表 短期事業計画費用

単位：(千円)

種別	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目
設計費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
修繕費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
点検費	0	0	0	2,000	0	0	0	0	2,000	0
合計	0	0	0	2,000	0	0	0	0	2,000	0
<b>10年の合計</b>									<b>4,000千円</b>	

### (7) 今後のコスト縮減を基本とする維持管理体制

当該施設は、利用状況より代替え並びに集約化不可ではるものの、今後、維持管理費の負担増が想定されるため、下表の方針で取り組み的確且つ早期発見早期治療を目指し、維持管理コストの縮減に努めます。

下 表

集約化・撤去	迂回路が存在せず集約が不可能となるために、 <b>予防保全においてコスト縮減を検討します。</b>
新技術等の活用	令和7年度までに <b>新技術の活用を目指します。</b>
費用の縮減	1巡目の定期点検で高所作業車を使用した施設については、 <b>新技術(NE TIS(新技術情報提供システム))の活用を重点的に検討し、令和7年度までの5年間で約0.5百万円のコスト縮減を目指します。</b>

## ○対象構造物・対象症状

### 橋梁の損傷・トンネルの変状



点検ロボットが取得した画像

- 橋梁定期点検要領に定める26種類の損傷※のうち、路面や洗堀、異常音・振動を除く損傷項目
- ロボットなどを用いて取得した大量の画像から損傷を自動検出する技術の実装を目指す。

※「定期点検要領」が部材ごとに規定する記録すべき損傷・変状